生物多様性保全における言葉の壁:

その重要性と解決策

天野 達也







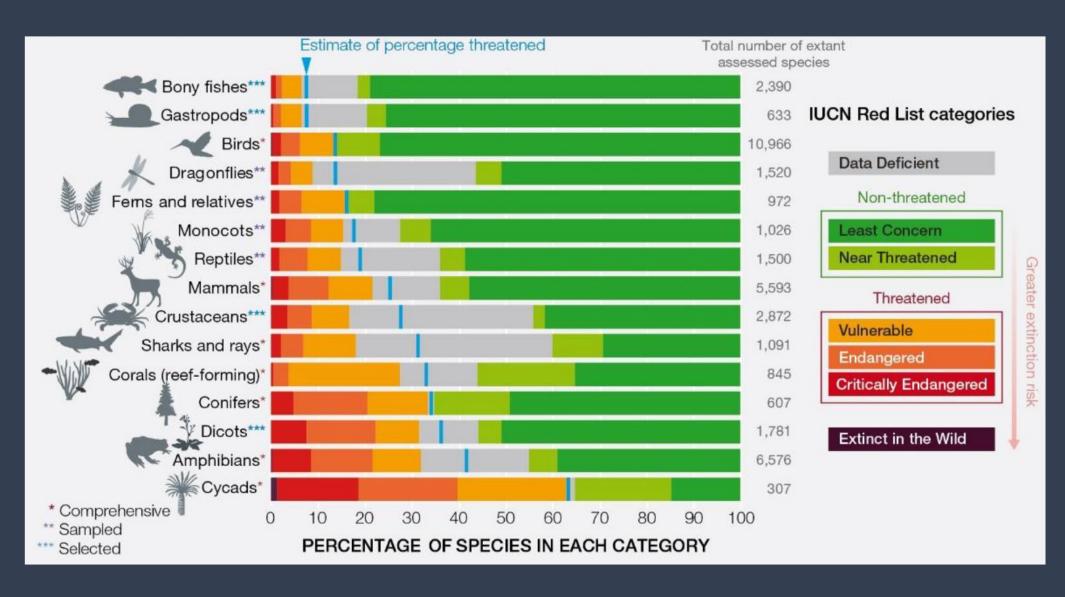
Centre for Biodiversity and Conservation Science



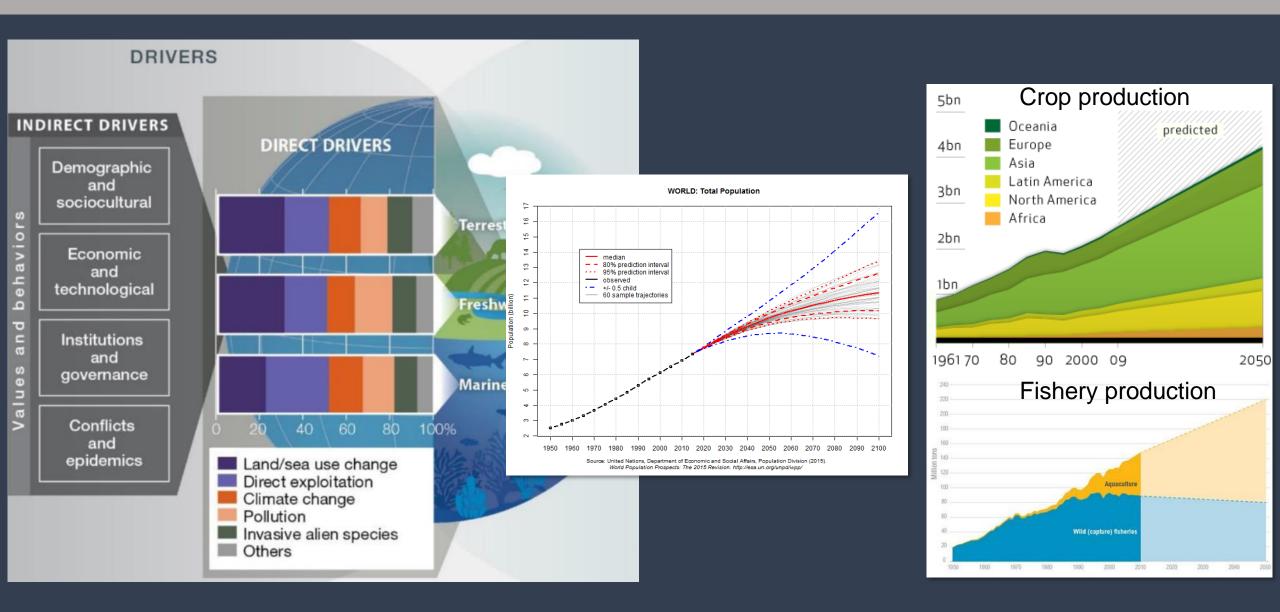




生物多様性の危機|第6の大量絶滅期



生物多様性の危機| 人間活動の影響



生物多様性の危機|人間社会に及ぼす影響

自然がもたらすもの
(Nature's contribution to people)
の低下



IPBES (2019) Global assessment report on biodiversity and ecosystem services of the IPBES

生物多様性保全のエビデンス | 科学者にできること

科学的手法を用いて収集された情報

(査読付き論文や学位論文やレポートなどの未出版研究など)

科学的エビデンスの創出

生物多様性に何が起きているか、なぜそうなっているか、どのように保全できるかを理解する

科学的エビデンスの集約

関連したエビデンスを収集し、特定の問題について結論を導く

科学的エビデンスの意思決定者への提供

得られたエビデンスを簡単にアクセス・理解可能な形式で提供する

なぜ言葉の壁が生物多様性の保全で重要か

世界に存在する言語の数

7,164

https://www.ethnologue.com/insights/how-many-languages/

世界におけるネイティブ英語話者の数

3億8千万人 https://www.ethnologue.com/insights/most-spoken-language/

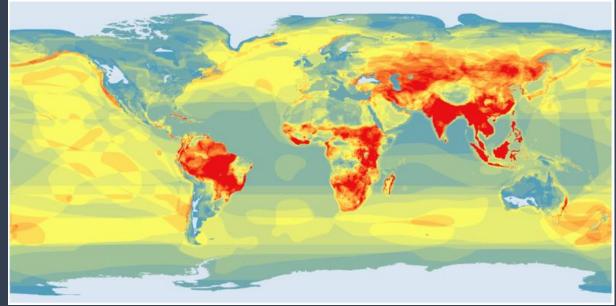
世界の人口80億人の95%が非ネイティブ英語話者

なぜ言葉の壁が生物多様性の保全で重要か

人口の大多数が英語を第一言語とする国・地域

両生類、鳥類、哺乳類の絶滅危惧種数





https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Anglospeak.png en:User:lamvered, CC BY 2.0 AT

https://www.iucnredlist.org/resources/other-spatial-downloads

translatE プロジェクト | 言葉の壁が保全に及ぼす影響を理解する

国際的なエビデンスの集約

エビデンスの創出

ネイティブ 英語話者

非ネイティブ 英語話者

言葉の壁

英語で得られる科学的エビデンス(64%)

Amano et al (2016) PLOS Biology

言葉の壁

言葉の壁のために 利用されない非英語 のエビデンス

言葉の壁

他の言語で得られる エビデンス(36%)

言葉の壁のために利用されない 英語のエビデンス

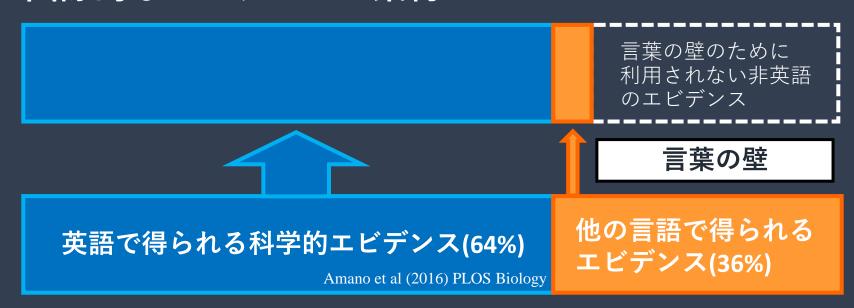
各地域でのエビデンスの活用

Transcending language barriers to environmental sciences

translat

国際的なエビデンスの集約に対する言葉の壁

国際的なエビデンスの集約





Transcending language barriers to environmental sciences

国際的なエビデンスの集約に対する言葉の壁

IPBESによる8つのレポートで引用されている文献の平均96.6%が英語文献

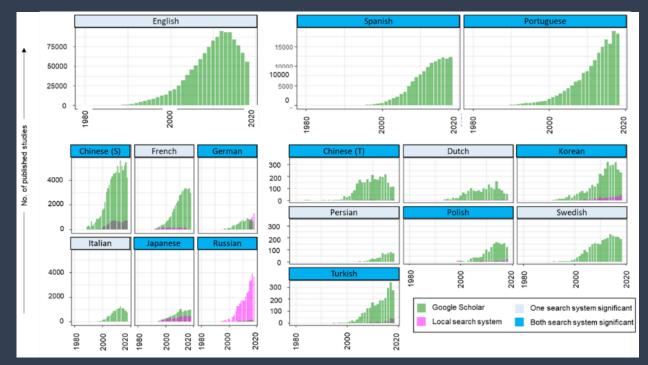


1. 相当量のエビデンスを利用しないことになる

分野横断検索の結果、保全対策の効果 を検証した**非英語論文を1,234本**特定 Conservation Evidenceデータベースに 収蔵されている**英語文献は4,412本**

Amano et al (2021) PLOS Biology

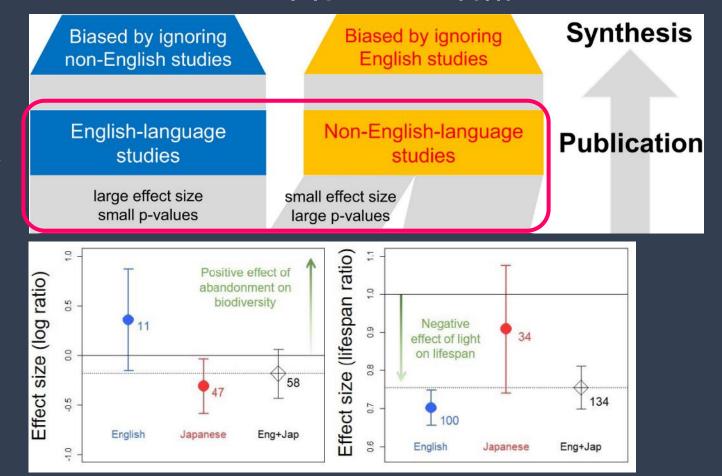
"biodiversity"と "conservation" で検索した学術文献数の年変化



Chowdhury et al (2022) Cons Biol

2. 偏った理解をもたらす

エビデンスの集約における言語バイアス



統計結果の言語バイアス

Konno et al (2020) Ecology and Evolution

2. 偏った理解をもたらす

エビデンスの集約における言語バイアス

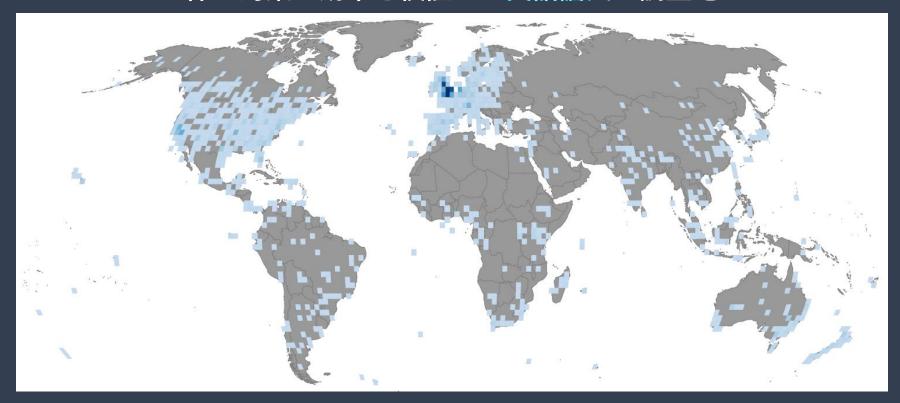
Synthesis Biased by ignoring Biased by ignoring non-English studies English studies English-language Non-English-language **Publication** studies studies large effect size small effect size small p-values large p-values **Analysis** local-scale large-scale, multiple species, general single species hypothesis specific hypothesis Research conducted by non-English-language speakers

統計結果の言語バイアス

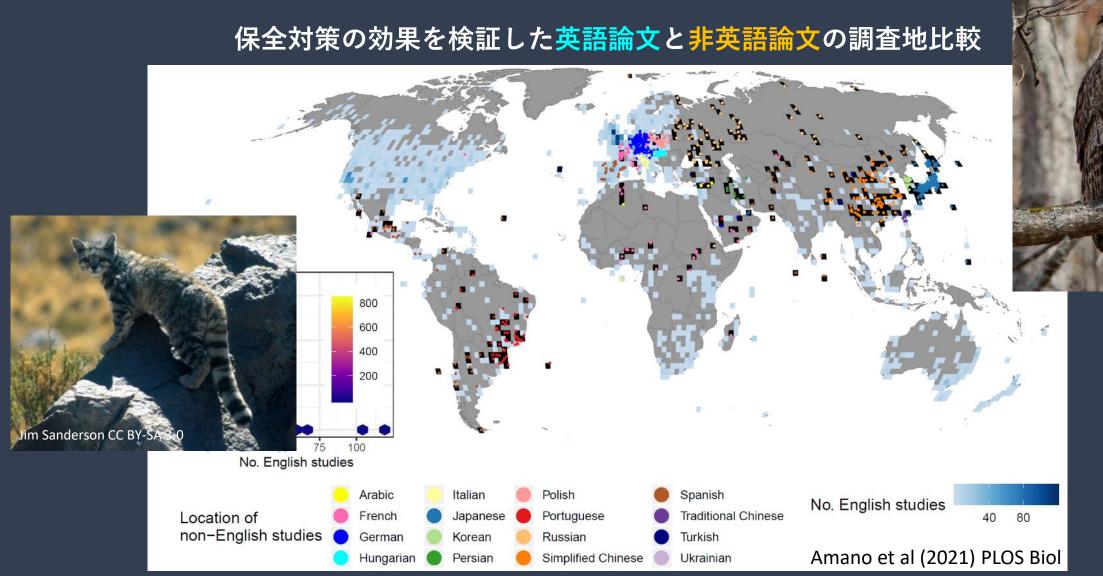
研究対象の言語バイアス

2. 偏った理解をもたらす

保全対策の効果を検証した英語論文の調査地



2. 偏った理解をもたらす



各地域でのエビデンス活用に対する言葉の壁



Amano et al (2016) PLOS Biology

他の言語で得られる エビデンス(36%)

言葉の壁

言葉の壁のために利用されない 英語のエビデンス



translate

Transcending language barriers to environmental sciences

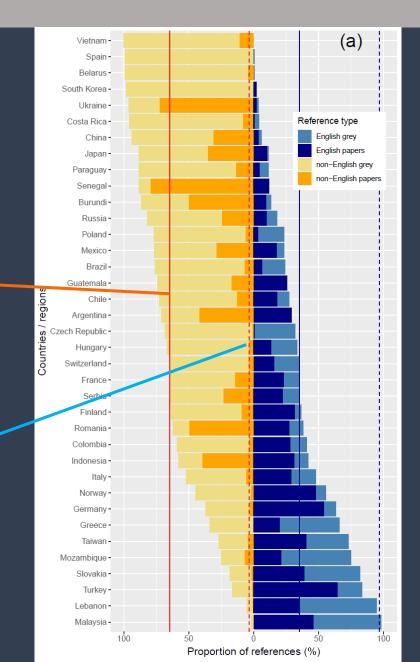
各地域でのエビデンスの活用

各地域でのエビデンス活用に対する言葉の壁

英語が公用語でない37の国・地域で発行された 生物多様性に関するレポートで引用されている 英語文献と非英語文献の割合

各レポートで引用されている文献の平均 **65%が非英語文献**

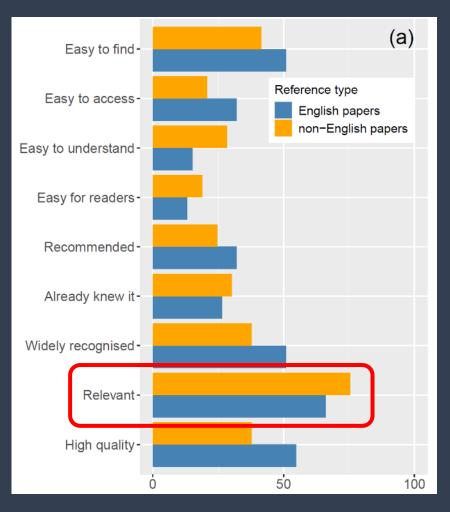
IPBESのレポートでは引用文献の平均 **3.4%のみが非英語文献**



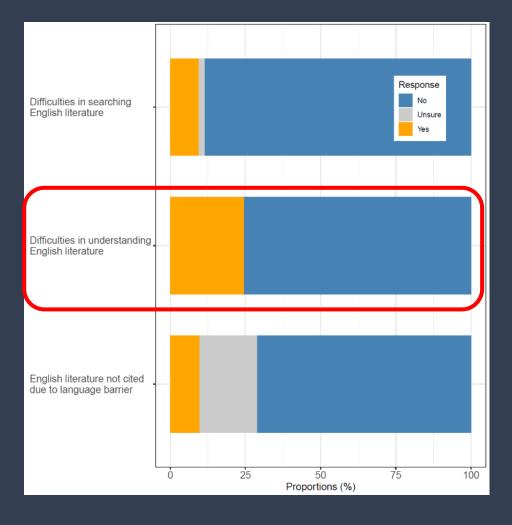
Amano et al (2023) Nature Sustainability

各地域でのエビデンス活用に対する言葉の壁

75%のレポート著者が非英語の文献 を重要な情報源と認識



25%のレポート著者が英語文献の理解に 苦労したと回答



エビデンスの創出



英語で得られる科学的エビデンス(64%)

Amano et al (2016) PLOS Biology

他の言語で得られる エビデンス(36%)



Transcending language barriers to environmental sciences

translatesciences.com

英語論文の理解

Scientific Life

A solution for breaking the language barrier

Rassim Khelifa , 1,2,3,8,*,@ Tatsuya Amano, 4,5 and Martin A. Nuñez 6,7

scientific solutions, but the dominance of the English language creates a large barrier for many non-English-proficient researchers to make their findings and knowl-

Global problems require global development [6,7]. Nevertheless, scientific English-proficient researchers to provide While recent calls have highlighted the nition for their services. need for urgent measures to increase speaking scientists and to solve inequalities repositories edge accessible globally. Here, we driven by the monolingual system [9-11]. Preprints repositories, such as bioRxiv,

and disseminate their research, impeding texts. Although there have been some inithe contribution of non-native English tiatives from some journals to address the speakers to addressing global challenges language barrier for authors (e.g., buddy/ that require a global perspective. The mentoring systems, abstracts and/or main language barrier also hinders many non-texts in non-English languages in journals native English-speaking researchers from such as Biotropica, Nature, PLoS Biology, obtaining essential scientific knowledge and Biological Conservation), there have [5], posing major obstacles to their career been few centralized systems that allow communities rarely provide genuine sup- peer language proofing to non-English port for non-native English speakers [8]. speaking researchers while receiving recog-

the representation of non-native English- Peer language proofing in preprint

propose integrating peer language we still lack viable long-term solutions to have revolutionized scientific research

英語論文の出版

Author Tasks

Submit a new manuscript



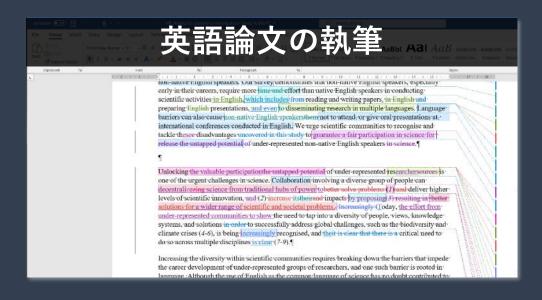
Post Decision Manuscripts (2)

General Tasks

Modify Unavailability Dates Log into My Account



tracking system home | privacy policy | cookie policy | manage cookies





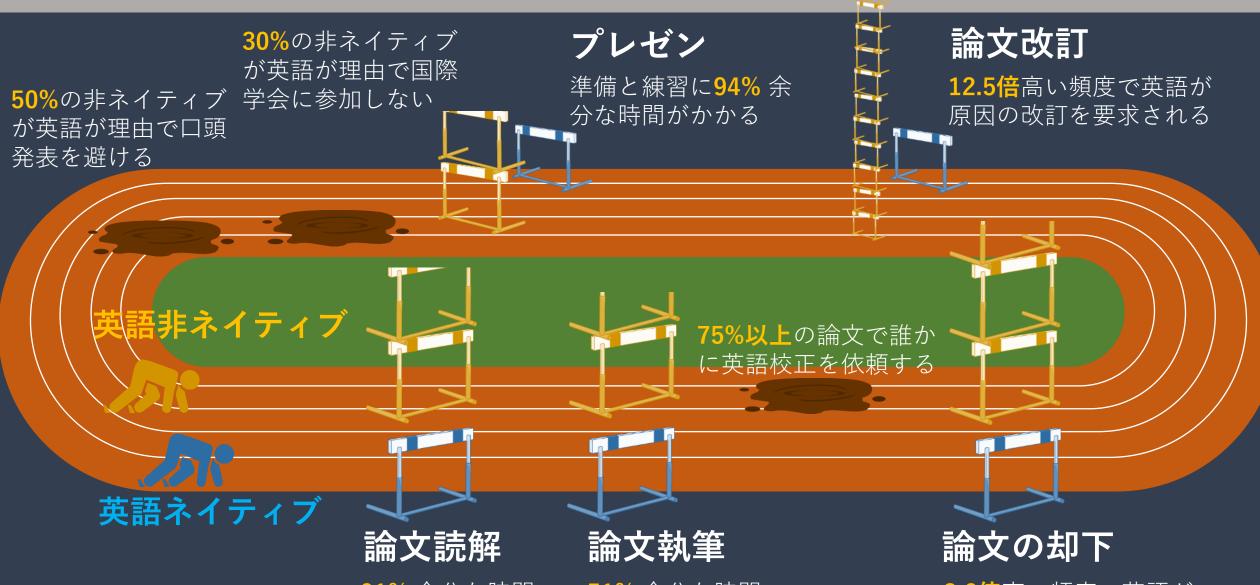
英語で科学を行うために必要な努力量を定量化する調査

英語レベルと経済レベルを基に選んだ8か国が対象

筆頭著者論文を英語で一本以上発表したことのある908人の環境科学者が参加

	英語レベル:低	英語レベル:中	英語が公用語
経済レベル:低ー中	バングラデシュ (108) ネパール (82)	ボリビア (100) ウクライナ (66)	ナイジェリア (40)
経済レベル:高	日本 (294)	スペイン (108)	英国 (112)

カッコ内は調査参加者数



Values are for those with one publication Amano et al (2023) PLOS Biology

91% 余分な時間 がかかる **51%** 余分な時間 がかかる 2.6倍高い頻度で英語が 原因のリジェクトを経験

どのようにして保全における言葉の壁を克服できるか?

科学における言葉の壁を克服するための10のヒント

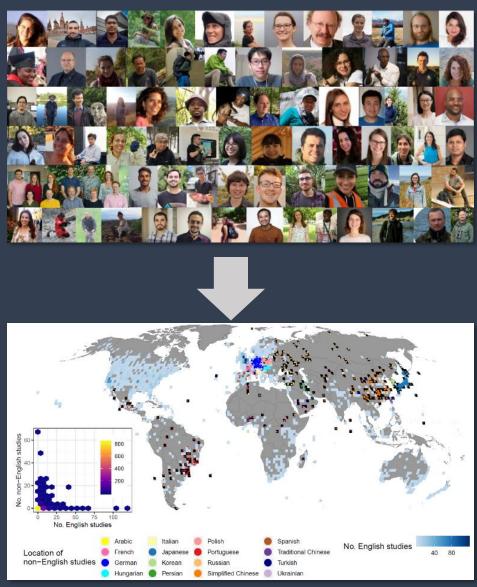
エビデンス集約に 対する言葉の壁

エビデンス利用に 対する言葉の壁

エビデンス創出に 対する言葉の壁

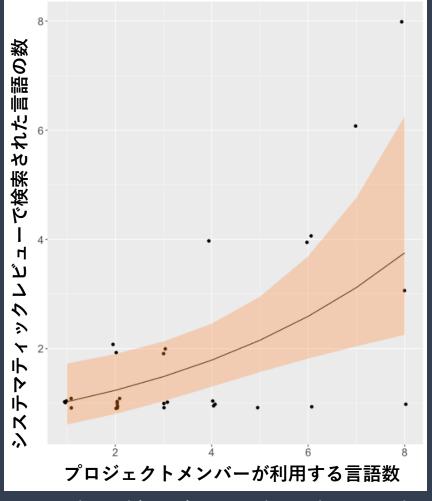
- 1. 研究成果を多言語で発信する
- 2. 多言語の科学的知識を利用する
- 3. 英語以外の言語で書かれた科学の可視性を高める
- 4. 科学用語を翻訳する
- 5. 英語が第一言語でない人へ真のサポートを提供する
- 6. 言語能力と科学の質を区別する
- 7. 科学的活動における言語バランスを考慮する
- 8. 言語の壁を克服するための努力を評価する
- 9. ネイティブでない人に配慮する
- 10. 既存のリソースや機会を利用する

多言語の科学的知識を利用する



Amano et al (2021) PLOS Biol

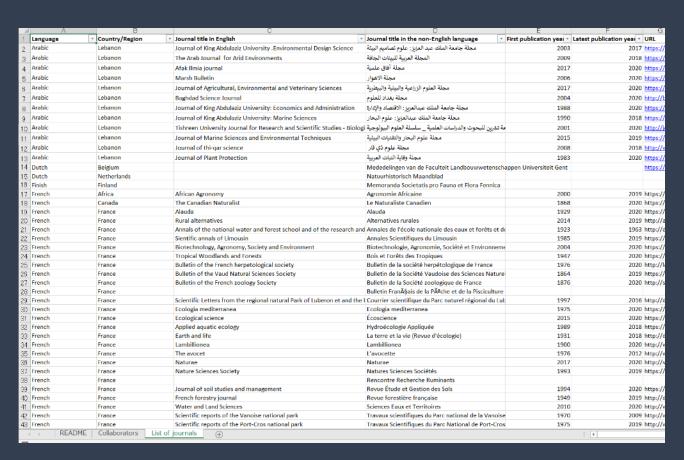
言語的に多様なプロジェクトチームほど、システマ ティックレビューで多くの言語を対象に検索する



Hannah et al (2024) Research Synthesis Methods

多言語の科学的知識を利用する

生態学・保全分野における英語以外の言語で出版されている466の学術誌リスト



各言語で主に用いられている文献検索システム

Language	Database	URL
Spanish	SciELO	https://scielo.org/en
Portuguese	SciELO	https://scielo.org/en
Chinese	CNKI	https://cnki.net/
(Simplified)		
Chinese	Airiti Library	https://www.airitilibrary.com/
(Traditional)		
French	Persee	https://www.persee.fr/
German	BASE	https://de.base-search.net/
Japanese	J-Stage	https://www.istage.ist.go.ip/browse/-char/en
Korean	Korean Citation Index	https://www.kci.go.kr/kciportal/main.kci?locale=en
Polish	Polska Bibliografia	https://pbn.nauka.gov.pl/core/#/home

Chowdhury et al (2021) Conserv Biol

Box 1. Strategies for and challenges in synthesising non-Englishlanguage literature

Searching effectively and understanding non-English-language literature can be a challenging task, with the lack of relevant language skills often being a key reason for excluding non-English-language literature in evidence synthesis [8]. Here, we summarise how we can practically synthesise non-English-language literature under such restrictions.

How to choose languages

Including more languages would make a synthesis more comprehensive, but given that

研究成果を多言語で発信する











Training future generations to deliver evidence-based conservation and ecosystem management

Harriet Downey , Tatsuya Amano, Marc Cadotte, Carly N. Cook, Steven J. Cooke, Neal R. Haddaway, Julia P. G. Jones, Nick Littlewood, Jessica C. Walsh, Mark I. Abrahams ... See all authors 🗸

First published: 25 January 2021 | https://doi.org/10.1002/2688-8319.12032

Handling Editor: Costanza Rampini

SECTIONS









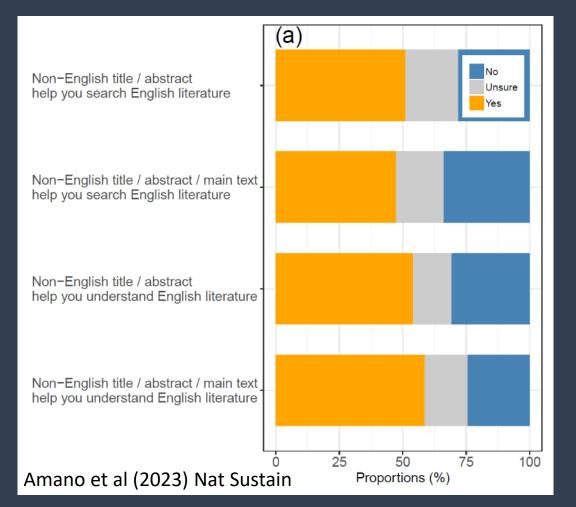
Abstract

EN ES DE JA ZH-HANT PT FR

エビデンスに基づいた保全と生態系管理を促進するための次世代教育

- 1. 生物多様性をより効果的に保全していくために、次世代の実務者はエビデンスに基づいた 意思決定の方法とエビデンスを統合することの価値を深く理解し、また批判的な思考を備え る必要がある。
- 2. 牛物多様性保全に関する教育課程においてこの課題を取り扱わなければ、現在の学生が今 後の保全活動に対して効果的な貢献を行うようにはならないだろう。

生物多様性に関する国レベルの報告書の著者 の約半数が、英語以外の言語の論文タイトル と要旨があると内容の理解に助かると回答

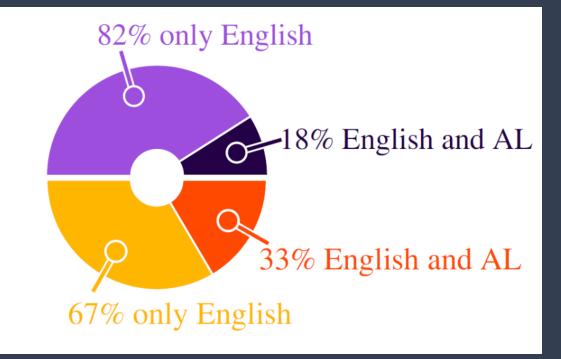


研究成果を多言語で発信する

生物科学分野・736の学術誌を対象とした調査

- 18%の雑誌が投稿規定で英語以外の言語の要旨掲載を認めると明記
- 33%の雑誌の編集長が、要求があった場合、英語以外の要旨掲載を 認めると回答

language of abstracts



指導教官 共同研究者

論文読解

論文執筆・出版

普及活動

国際会議の参加

- 非ネイティブは英語論文の 読解に時間がかかることを 認識する
- 適切なAIツールの利用を考える
- 非ネイティブは英語論文の執筆に時間が かかることを認識する
- 英語校正を行う/非ネイティブのサポート をする人を見つける
- 適切なAIツールの利用を考える

■ 複数言語で行う研究の普及 活動を評価し、金銭面で支 援し、また実際に行う努力 をする ■ 英語発表を準備する際に英語校正 を行う



大学 機関

- 英語読解のトレーニングを 行う機会を提供する
- 学生の第一言語での教材を 教育に組み込む
- 英語執筆のトレーニングを行う機会を 提供する
- 助成金の設立などにより英語校正や翻訳を金銭的に支援する
- 複数言語で行う研究の普及 活動を評価し、金銭面で支 援し、また実際に行う努力 をする
- プレゼンテーションの英語校正や 翻訳を金銭的に支援する



学術誌

- 著作権の放棄などを通して、 英語論文の翻訳出版を支 援・奨励する
- 科学の質にのみ基づいた論文評価を行う ための指針(ダブルブラインド・レ ビューを含む)を策定する
- 非ネイティフのサポートをする人を見づける仕組みを確立する
- 適切なAIツールの利用を考える

- 英語論文の非英語要旨を提供・ 奨励する
- 複数言語での研究の普及活動を 支援し、また実際に行う(例: ソーシャルメディアなど)



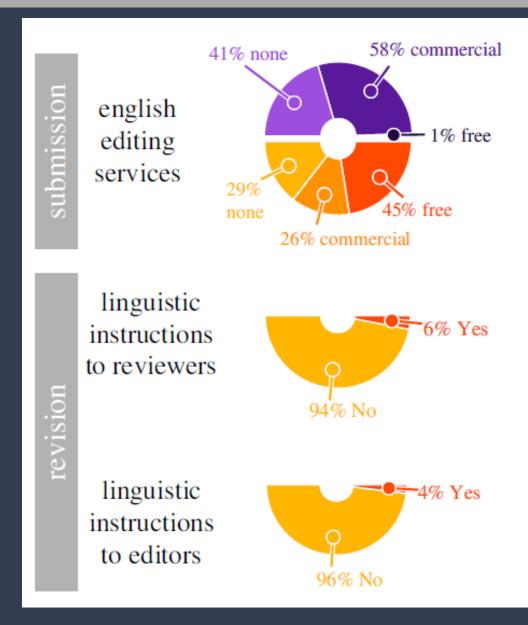
資金提供者

- 教育を目的とした書籍や原 著論文の翻訳に対して資金 を提供する。
- 特に低所得地域の研究者やキャリア初期の研究者を支援するために、英語校正や翻訳を対象とした助成金を設立する
- 複数言語で研究の普及活動 を行う計画を評価し、資金 を提供する
- プレゼンテーションの英語校正や 翻訳を対象とした助成金を設立する



学会

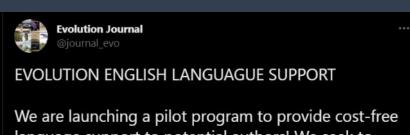
- 会議録を複数言語で出版 する。
- 非ネイティブのサポートをする人を 見つける仕組みを確立する
- 複数言語での発表を奨励する
- 言語の壁を考慮した指針を策定する



生物科学分野・736の学術誌を対象とした調査

- 41%の雑誌が英語校正のサポート提供なし
- 58%の雑誌が有償サービスの紹介のみ

- 論文を英語の質だけで評価しない ことを指導する査読者向けガイド ラインが存在する雑誌は6%
- 編集者向けの同様のガイドライン が存在する雑誌は4%



language support to potential authors! We seek to appoint a coordinator and team of editors for this program. Coordinator applications due May 1!

evolutionsociety.org/news/display/2... \oslash





Language support – We particularly provide help to those whose first language is not English.

#waders #shorebirds #ornithology

ツイートを翻訳

(3/9)





国際保全生物学会議 2025 理念表明



ICCB2025 では英語が共通言語として用いられることとな ります。しかし、英語以外の多くの言語でも生物多様性保 全が実践され、情報がやり取りされていることを踏まえ、 本大会にはあらゆる言語的背景を持つ方々に是非参加して いただきたいと考えています。特に第一言語が英語でない 人の場合、国際学会の参加と聞くと気後れしてしまうかも しれません。そこで ICCB2025 では、参加者に対する言葉 の壁を最小限にすることに注力しています。現在、多様な 言語的背景をもつ参加者をどのようにサポートすることが できるか検討中で、多様なコミュニティに対する私たちの コミットメントを共有し、紹介できることを楽しみにして います。

https://conbio.org/conferences/iccb-2025/



1 AUGUST 2022 / PUBLISHERS

British Ecological Society integrates Writefull into submission system

The British Ecological Society, the oldest ecological society in the world, has integrated Writefull into its manuscript submission system. Submitting authors can now use Writefull's language revision free of charge. The British Ecological Society joins other publishers, such as Hindawi, Cambridge University Press, and Karger, in an effort to reduce the language barrier for authors.

Authors who are submitting their manuscript are invited to use <u>Writefull Revise</u>, a web app where they can upload their document, and download a revised version with Writefull's language edits in Track Changes. The language suggestions, provided by Writefull's language models, are tailored to research writing.

Through this integration, the British Ecological Society offers language and writing support to all authors who may need it. As the Society <u>writes</u>: "The expectation for authors to publish in English can be a significant barrier for researchers whose native language is not English. It can also lead to significantly longer times in peer review if Editors also have to return papers to authors where the language isn't of the required

Springer Nature introduces Curie, its AI-powered scientific writing assistant

London | Berlin | New York, 13th October 2023

Springer Nature today announced a new AI-powered in-house writing assistant to support researchers, particularly those whose first language is not English, in their scientific writing.

Global research shows that it takes non-native English speaking scientists 51% more time to write a paper (1). This creates an unequal divide in research, limiting the advancement of knowledge and impacting the submission of high quality research from across the globe.

Curie is our response. It has been specifically trained on academic literature, spanning 447+ areas of study, more than 2,000 field-specific topics and on over 1 million edits on papers published including those in leading Nature journals. It combines the power of large language models (LLMs) with specialised AI digital editing developed inhouse and designed specifically for scientific writing. Unlike generalist AI writing apps, Curie focuses on the unique pain points of researchers in their professional writing, including translation to English and English language editing to address grammatical errors and improve phrasing and word choice.

When the service was trialed with researchers in China publishing in *Scientific Reports* and the *Discover Series*, of the 67% of authors who used the tool, 90% subsequently saw their manuscript proceed to peer review, with a 14% increase in articles published at the end of the trial (2).

Eugenie Regan, Vice President, Research Solutions at Springer Nature said:

"By evolving our digital experiences to meet the needs of, and support all researchers, we can save them time, enabling them to focus their efforts where they can have the biggest impact - on the groundbreaking research that advances knowledge and propels society forward."

EDITORIAL

ChatGPT is fun, but not an author

Machines play an

important role,

but as tools for the

people posing

the hypotheses..

and making

sense of the results.

program ChatGPT has become a cultural sensation. It is freely accessible through a web portal created by the tool's developer, OpenAI. The programwhich automatically creates text based on written prompts-is so popular that it's likely to be "at capacity right now" if you attempt to use it. When you do get through, ChatGPT provides endless entertainment. I asked it to rewrite the first scene of the classic American play Death of a Salesman, but to feature Princess Elsa from the animated movie Frozen as the main character instead of Willy Loman. The output was an amusing conversation in which Elsa-who has come

Happy, "Come on, Mom, You're Elsa from Frozen. You have ice powers and you're a queen. You're unstoppable." Mash-ups like this are certainly fun, but there are serious implications for generative AI programs like ChatGPT in science and academia.

ChatGPT (Generative Pretrained Transformer) was developed with a technique called Reinforcement Learning from Human Feedback to train the language model, enabling it to be very conversational. Nevertheless, as the website states, "ChatGPT sometimes writes plausible-sounding but incorrect or nonsensical answers." Several

examples show glaring mistakes that it can make, including referencing a scientific study that does not exist.

Many concerns relate to how ChatGPT will change education. It certainly can write essays about a range of topics. I gave it both an exam and a final project that I had assigned students in a class I taught on science denial at George Washington University. It did well finding factual answers, but the scholarly writing still has a long way to go. If anything, the implications for education may push academics to rethink their courses in innovative ways and give assignments that aren't easily solved by AI. That could be for the best.

More worrisome are the effects of ChatGPT on writing scientific papers. In a recent study, abstracts created by ChatGPT were submitted to academic reviewers, who

n less than 2 months, the artificial intelligence (AI) | only caught 63% of these fakes, That's a lot of AI-generated text that could find its way into the literature soon.

For years, authors at the Science family of journals have signed a license certifying that "the Work is an original" (italics added). For the Science journals, the word "original" is enough to signal that text written by ChatGPT is not acceptable: It is, after all, plagiarized from ChatGPT. Further, our authors certify that they themselves are accountable for the research in the paper. Still, to make matters explicit, we are now updating our license and Editorial Policies to specify that text generated by ChatGPT (or any other AI tools) cannot be used in the work, nor can figures, images, or graphics be home from a tough day of selling—is told by her son the products of such tools. And an AI program cannot

be an author. A violation of these policies will constitute scientific misconduct no different from altered images or plagiarism of existing works. Of course, there are many legitimate data sets (not the text of a paper) that are intentionally generated by AI in research papers and these are not covered by this change.

Most instances of scientific misconduct that the Science journals deal with occur because of an inadequate amount of human attention. Shortcuts are taken by using image manipulation programs such as Photoshop or by copying text from other sources. Altered images and copied text

may go unnoticed because they receive too little scrutiny from each of the authors. On our end, errors happen when editors and reviewers don't listen to their inner skeptic or when we fail to focus sharply on the details. At a time when trust in science is eroding, it's important for scientists to recommit to careful and meticulous attention to details

The scientific record is ultimately one of the human endeavor of struggling with important questions. Machines play an important role, but as tools for the people posing the hypotheses, designing the experiments, and making sense of the results. Ultimately the product must come from-and be expressed by-the wonderful computer in our heads.

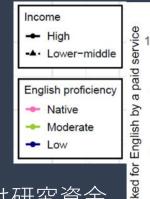
-H. Holden Thorp



H. Holden Thorp Editor-in-Chief, Science journals hthorp@aaas.org: @hholdenthorp

we are now updating our license and Editorial Policies to specify that text generated by ChatGPT (or any other Al tools) cannot be used in the work, nor can figures, images, or graphics be the products of such tools.

H.H. Thorp, Editor-in-Chief of Science, 26 January 2023



低・中所得国の研究者は研究資金 欠如のため、有償の英語校閲サー ビスをほとんど利用しない (Amano et al 2023 PLOS Biology)

F. % papers checked for English by a paid service checked papers 175 Number of English papers published

10 1126/science ada7870

27 JANUARY 2023 • VOL 379 ISSUE 6630 313

AIの役割

Al tools can improve equity in science

In his Editorial "ChatGPT is fun, but not an author" (27 January, p. 313), Editor-in-Chief H. H. Thorp describes Science's position on using artificial intelligence (AI) in scientific papers. The updated policy essentially bans the use of text generated from AI, machine learning, or similar algorithmic tools in articles. However, Thorp overlooks the potential of AI tools to improve equity in science by alleviating linguistic disparities.

Research has shown that nonnative English speakers need to invest much more effort than native English speakers when writing papers in English (1). Journals are more likely to reject or request revisions

SCIENCE science.org

Berdejo-Espinola & Amano (2023) Science

before acceptance of papers written by nonnative English speakers (2, 3). Human English translation and editing services are costly and time-consuming (4), creating a profound disadvantage for the career development and fair participation of nonnative English speakers in science.

Emerging AI tools, such as ChatGPT and DeepL, can proofread English text with high accuracy (5, 6). The availability of quality, free (or affordable) English editing presents an opportunity for nonnative English speakers, especially those in low-income countries, who often cannot afford to use human English editing services (1, 4). Reducing the technical and financial burden of editing and proofreading papers for nonnative English speakers would be a substantial step toward achieving equity in science.

Our relationship with AI should be a partnership, not a competition. Journal policies should allow authors to use AI tools to edit and proofread their manuscripts. Journal editors can ensure that humans wrote the original text by using the detection tools available [e.g., (7)]. In addition, they can request that authors declare the use of AI tools, as Nature does (8), or submit the original version as well as the AI-edited version of the manuscript for full transparency. Regardless of whether they use AI tools, authors will always be responsible for the language used and the content in their final text.

Violeta Berdejo-Espinola* and Tatsuya Amano School of Biological Sciences, The University of Queensland, Brisbane, QLD 4072, Australia and Centre for Biodiversity Conservation and Science, The University of Queensland, Brisbane, QLD 4072, Australia.

*Corresponding author. Email: v.berdejoespinola@uq.edu.au

REFERENCES AND NOTES

- T. Amano et al., EcoEvoRxiv 10.32942/X29G6H (2022).
 S. Politzer-Ahles, T. Girolamo, S. Ghali, J. Eng. Acad. Purp. 47, 100895 (2020).
- A. L. Romero-Olivares, Science 10.1126/science.caredit.
- V. Ramírez-Castañeda, PLOS ONE 15, e0238372 (2020).
- A. Katnelson, Nature 609, 208 (2022).
- S. Hun, Sci. Edit. 10.1 (2023).
- J. Hendrik Kirchner, L. Ahmad, S. Aaronson, J. Leike, "New Al classifier for indicating Al-written text," OpenAl (2023); https://openai.com/blog/ new-ai-classifier-for-indicating-ai-written-text/.
- 8. Nature 613, 612 (2023).

10.1126/science.adg9714

EDITOR'S BLOG | EDITORIAL POLICIES

Change to policy on the use of generative AI and large language models

16 NOV 2023 • 2:00 PM ET • BY H. HOLDEN THORP, AND VALDA VINSON • 2 MIN READ

The adoption of ChatGPT and related large language models to support research and generate scholarly content continues to accelerate. The policy for the *Science* family of journals has been that the use of these tools in research is acceptable as long as proper disclosure appears in the methods section. However, we initially took a very restrictive stance regarding the use of ChatGPT in preparing text and figures while monitoring thoughts and responses across the broad scientific community. As we said earlier this year, "... we believe it is prudent to wait until we have more clarity on what uses the scientific community will see as permissible."

Artificial intelligence (AI). Authors who use AI-assisted technologies as components of their research study or as aids in the writing or presentation of the manuscript should note this in the cover letter and in the acknowledgments section of the manuscript. Detailed information should be provided in the methods section: The full prompt used in the production of the work, as well as the AI tool and its version, should be disclosed. Authors are accountable for the accuracy of the work and for ensuring that there is no plagiarism.

AIの役割







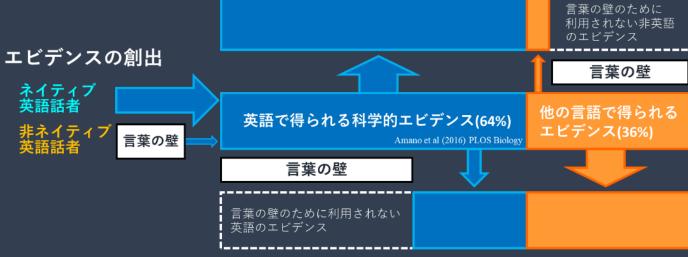
Text classifiers based on multilingual models

国際的なエビデンスの集約













各地域でのエビデンスの活用



translatE プロジェクト | 言葉の壁が保全に及ぼす影響を理解する

Thanks to over 130 collaborators: https://translatesciences.com/people/

Ten tips for overcoming language barriers in science

- 1. Disseminate research in multiple languages
- 2. Use scientific knowledge sourced from multiple languages
- 3. Increase the visibility of non-English-language science
- 4. Translate scientific terms
- 5. Provide genuine support to non-native speakers
- 6. Distinguish language skills from scientific quality
- 7. Consider language balance in scientific activities
- 8. Acknowledge efforts to overcome language barriers
- 9. Be considerate of non-native speakers
- 10. Make use of existing resources and opportunities

translat

Transcending language barriers to environmental sciences

translatesciences.com

Kailen Conservation Graup

kaizenconservation.com

Amano et al (2016, 2021, 2023) PLOS Biology
Amano et al (2023) Nature Sustainability
Arenas-Castro et al (2024) Proc R Soc B
Berdejo-Espinola & Amano (2023) Science
Chowdhury et al (2021) Conserv Biol
Hannah et al (2024) Res Synth Methods
Konno et al (2020) Ecology and Evolution
Lynch et al (2021) One Earth

Amano et al (2021) Nature Human Behaviour